Lesson

10

家族と信仰

数年前、あなたにとって家族とはどのような存在ですかという調査がされました。１位は心の支えになる存在、２位は安心できる存在、３位は助け合える存在でした。あなたにとって、家族とは何でしょうか。神様は家族をどう考えておられると思いますか。

この課で学ぶこと

1．聖書における家族

（1）家族―神様が制定されたコミュニティ

（2）家族―神様が契約を結ばれるコミュニティ

2．神様が願っておられる家族

（1）互いに愛し合い、赦し合う

（2）互いに仕え合う

（3）礼拝共同体としての家族

（4）家庭は信仰を受け継ぐところ

3．家庭の基盤である結婚

（1）クリスチャンホームを築く

（2）パートナーの救いのために祈る

（3）離婚について

4．教会の役割

（1）チャレンジを抱える各家庭を支える

（2）身近でむずかしい宣教をともに担う

（3）家庭集会の恵み

●考えてみましょう

あなたにとって家族とは何でしょうか？

1．聖書における家族

聖書は家族について何と言っているでしょうか。

（1）家族 - 神様が制定されたコミュニティ

家族は神様が制定された結婚という契約関係から始まります（創世記 2：22-25)。そして最初の家族に、どのように生きるべきかを教えてくださいました（創世記 1：27-28)。家族を子孫が広がるように祝福して下さり、また神様がお造りになった世界を正しく治めるよう命じられ、神様を礼拝しそのご栄光を現すように、生きる目的をくださいました。家族は、神様がお造りになられた社会の基本的な単位であり、かつ目的をもった大切なコミュニティです。

（2）家族 - 神様が契約を結ばれるコミュニティ

罪が全地に広がってしまった時、神様はノアと契約を結ばれました。「わたしはあなたと契約を結ぶ。あなたは、息子たち、妻、それに息子たちの妻とともに箱舟に入りなさい」(創世記 6：18)。神様はノアとその家族を洪水から救うと契約を結んでくださったのです。そして洪水の後、神様はノアと息子たちに言われました。「見よ、わたしは、わたしの契約をあなたがたとの間に立てる。そして、あなたがたの後の子孫との間に」(創世記 9：9)。

またその後、アブラハムと契約を結ばれました。「わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、またあなたの後の子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしは、あなたの神、あなたの後の子孫の神となる」(創世記 17：7)。

神様は選んでくださった者、そしてその家族と契約を結んでくださ

いました。どの家族も罪ゆえにゆがめられ傷ついていますが、神様はその家族、そしてそこから広がる子孫を救い、また祝福を与えたいと願っておられます。家族は神様が祝福をもたらす契約を結んでくださるコミュニティなのです。

コラム

家族とは？

旧約聖書では、家族は族長を筆頭にその一族をさしたと考えられます。大家族だったことでしょう。一方、現代の家族にはいろいろな形があります。結婚は契約により家族になることですが、血のつながりによる家族、そうでなくても一つ屋根の下に暮らす家族、血のつながりのある親族を家族とみなすこともあるでしょう。いずれにしても社会のコミュニティの最小単位である家族は神様の祝福の対象です。

2．神様が願っておられる家族

では神様はどのような家族のあり方を願っておられるでしょうか。

（1）互いに愛し合い、赦し合う

家族は神様の恵みと祝福があふれるところです。神様を信じていない人々にとっても、家族は心の支えであり、安心できるところであり、助け合えるところとして機能しています。神様が一つ一つの家族を守っておられるからです。

まして主から互いに愛し合う愛をいただいているクリスチャンたちの家庭では、そこは主の愛のあふれるところとなります。とはいえ、人間関係は密であればあるほど、互いの弱さも見えます。そのときクリスチャンホームは、「互いに忍耐し合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたが

たを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい」(コロサイ3：13)というみことばに従うように祈り、主の助けをいただいて互いに赦し合うのです。

（2）互いに仕え合う

家族はそれぞれの持っている賜物・能力が発揮できるように、互いを支え合うところでもあります。イエス様はしもべとなり、仕えるために、この世に来てくださいました(マルコ 10：45)。それは私たちをコントロールしたり、力づくで支配するためではありませんでした。主イエスにならって、家庭の中で、互いの賜物を認め、励まし、力づけ、必要な助けをして支えることで、与えられた能力を生かして、この社会で積極的に生きていく手助けをすることができます。これは夫婦間ではもちろんのことですが、特に親子の関係の中で大切にしたいことです。

（3）礼拝共同体としての家族

家族がクリスチャンであるなら、ともに祈り、みことばを読むことができます。家庭は礼拝のコミュニティの最少単位ということもできます。神様は親たちに、家庭の中で子どもたちに聖書を教えるようにお命じになりました(申命記 6：7)。神様は家庭の中で、ご自分が覚えられ、愛され、礼拝されることを願っておられるのです。

（4）家庭は信仰を受け継ぐところ

したがって、神様は子どもたちが信仰を受け継ぐために、家庭が大切な働きをするよう願っておられます。「主は　ヤコブのうちにさとしを置き　イスラエルのうちにみおしえを定め　私たちの先祖に命じて　その子らに教えるようにされた」(詩篇 78：5)とあるように、親たちが子どもたちにみことばを教えるように命じられました。毎日

の生活の中で、子どもたちは親の信仰を通して、神様がおられること、神様が生きて働いておられること、信頼に足るべき方であること、祈るべきこと、みことばを聴くことの大切さを学んでいきます。神様の前に弱さを抱えたありのままの信仰者の姿が、子どもたちに神様を伝えていくのです。子どもの信仰のために親ができることは限られていますが、それでもそのために祈り労していくことを主は願っておられます。

3．家庭の基礎である結婚

（1）クリスチャンホームを築く

クリスチャンはクリスチャンと結婚することが何より幸せです。これから結婚を考える方々には、クリスチャンホームを築くことを祈ってほしいと思います。ただ現実には多くの方がクリスチャンでない人と結婚しています。好きになっ

コラム

家庭礼拝の実際

子どもと一緒に聖書を読むようにしているクリスチャンの親は多くおられます。平日はお母さんがかかわっていることが多いようです。毎晩子どもバイブルを読み聞かせてお祈りする、一緒に聖書を輪読して一日の様子を聞き互いに祈る、『聴くドラマ聖書』を一緒に聞いているという親子もいるようです。ティータイムとセットにして楽しい時にするなど、生活スタイルや子どもたちの特徴に合わせて、工夫しながら毎日の小さな家庭礼拝を続けていきたいものです。おかずを一品減らしてもぜひ霊のごはんを！大きくなると時間が合わずできなくなります。小さいうちにお子さんと主にあるよい時間をもってください。

た相手がクリスチャンになるよう祈りましょう。教会や信頼のおける人たちにも伝え、祈ってもらいましょう。日曜日に家族そろって礼拝を捧げ、家庭でともに祈ることができるのはクリスチャンにとって代えがたい恵みです。

（2）パートナーの救いのために祈る

結婚したあとにクリスチャンになられた方も多いことでしょう。もしパートナーがクリスチャンでない場合には、その方の救いのために祈り続けましょう。長期間の祈りになることもしばしばですが、神様は祈りに報いてくださる方です。主はいつの日か救いに導いてくださいます。

（3）離婚について

聖書には離婚について条件付きで禁じていますが(Ⅰコリント 7：10-13)、「信者でないほうの者が離れていくなら、離れて行かせなさい」(7:15-16)とケースバイケースであることがうかがえます。離婚したくてする人はいません。離婚はこの罪によってゆがめられた世界の中で避けられない痛みの一つかもしれません。この世界の人たちは簡単に離婚してしまうように見えますが、クリスチャンはできるだけ離婚に至らなくてすむように願い祈り、教会はそのカップルを助けることが必要です。でも残念なことに様々な事情から、そうせざるをえないこともあります。一番つらいのはご本人ですので、まわりのクリスチャンたちは決してさばくことなく、その方を祈って支え、また一人で悩み苦しまなくてすむよう、話を聴き、寄り添うことが大切です。

4．教会の役割

教会は、神様がお定めになった家族を様々な面からサポートする役割を担っています。教会にはすでに同じチャレンジを経験してきた方

がいます。そうした経験は、各家庭が持つチャレンジをともに担い、励ますために役立ちます。

（1）チャレンジを抱える各家庭を支える

小さい子のいる親は教会に来るだけでも大きな苦労です。しかし週に一回、子どもたちが礼拝共同体の中で過ごす時間は子どもたちの信仰のために貴重です。教会はよく来たねと励まし、礼拝中、できるだけのサポートをしましょう。また教会内に限らず、介護中の方、ヤングケアラー、経済的困難を覚えている家庭など地域には様々な必要があります。そうした必要を覚えている家庭を見つけ、支えるのも教会の大切な役割でしょう。

（2）身近でむずかしい宣教をともに担う

家族や親族がクリスチャンではないという方も多いでしょう。私たちはいただいた恵みを愛する家族にも受け取ってもらいたいと願い祈ります。家庭は宣教の最前線とも言え、そして私たちの弱さが見えるゆえに、もっとも宣教の難しい場所かもしれません。人が救われるには神様の時があります。祈り疲れ、あきらめたくなることもしばしばです。でも教会は決してそのクリスチャンを孤独にせず、同じ痛みを担う者として、希望をもってともに祈り続けましょう。愛する兄弟姉妹の家族は、教会全体で愛して救いを祈っていくべき方々です。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」(使徒 16：31)というみことばを信じて祈りましょう。家族の救いは、教会にとっても力と励ましになります。

（3）家庭集会の恵み

教会に来るにはハードルが高い方々を家庭に招き、そこで聖書を一緒に学ぶといった家庭集会を勧めている教会もあります。使徒の働きには、コルネリオが親族や友人を呼んでペテロを待っており（使徒 10：

24)、そこで福音を聴いた人々が救われたことが記されています（10：44-48)。宣教の働きが家庭の中で行われたのです。今でも多くの方々が家庭の暖かい雰囲気の中で、次第に心を開き、祈りの課題をお話しくださるようになり、イエス・キリストを信じていかれます。宣教のために家庭を用いていただきたいと願うことはすばらしいことです。教会は家庭集会が用いられるよう祈り、支えていきましょう。よい連携がなされるとき、主は家庭を用い、救われる方を起こしてくださるでしょう。

まとめ

家族は神様がお造りくださったすばらしいコミュニティであり、そこに神様の恵みがあらわされるところです。

Q 話し合ってみましょう

1．あなたが家族について持っている課題や痛みはなんでしょうか？さしつかえなければ分かち合いましょう。

2．あなたが自分の家族、教会の家族、地域の家族のためにできることは何でしょうか？